

市内の学校の取り組み④

大宮小学校

温かい人間関係を基盤とした全教育活動の中で、基礎・基本の力を培い、心豊かでたくましく、自ら学び考えて行動できる児童の育成を目指しています。

「輝く 大宮っ子！」笑顔・個性・命が合い言葉。新しいことにチャレンジする活力ある学校でありたいとみんなでアイデアを出し合っています。

①豊かな言語活動を取り入れた授業づくり

学力テスト等の結果から国語科の力に課題があることが明らかにになり、言語力に重点を置いた授業改善と授業研究に取り組んでいます。自分なりの言葉で自分の考えを表現することで自信を持ち、「生きる力」につなげていきたいと考えています。集いに学年発表を取り入れ、その後、全校で感想や意見を発表する場を設



▲縦割り班での読み聞かせ

けています。回を重ねるにつれて、進んで発表する児童が増えてきました。また、朝の会での音読や漢字学習の工夫にも継続的に取り組んでいます。

②読書で育てる豊かな心

「読みたい・知りたい・伝えたい」を図書館のテーマとし、図書館教育に重点的に取り組んでいます。長年継続してきた読書タイムや親子読書等に加え、新たに『つじ読書』を始めました。校舎のあちこちに縦割り班で集まり、ボランティア

アさんや先生の読み聞かせを楽しみます。読書タイムの時間に月2回(金曜日)行っています。掃除が終わると学校全体が図書館に变身するひとときです。

③「体験と思考」でバランスのとれた学力形成を

学校農園での栽培体験を通しての食育やものづくり体験、さまざまな出前授業の活用等によって児童の知識と体験をつなげることを重視しています。体験したことを文章にまとめたり、お礼の手紙を書く等の活動によって、自分を振り返る力や物事を関連づけて考える力を育てたいと思います。

香北中学校

「勤労・自主・友愛」をスローガンにいろいろな行事に取り組んでいます。

①校内弁論大会

全員が学級内で意見発表し、代表が地域の人や保護

者の前で発表。その中から、市の弁論大会に数人が出場します。自分の考えや思いを語り、聞く人もまた共感や自己の考えを広め、深めていく。自主・友愛の輪を育てています。

②梶ヶ森登山

ここ数年、天候不順のため山頂で泊まることができず、御来光も見ることができていません。それでも毎年6時間近くかけて頂上を目指しています。



▲梶ヶ森登山

⑤予餞会

3年生を送るために、1・2年生が劇や歌を歌ったり、演奏したりして、教職員も参加し、和やかな半日を過ごします。3年生もそれに応えて歌で返礼します。送る者と送られる者。穏やかな交歓の一コマです。

③廃品回収

年2回、地域を回り、時には、山間部のお年寄りの家に出向き、廃品を回収しています。学校の行事ですが、多くの地域の人が協力してくれています。収益も

あげ、人の役にも立つ。勤労の喜びと自己の存在感も感じる。そこから自主・友愛も育ってくると思います。

④合唱コンクール

学級対抗で合唱に取り組んでいます。歌で人の心を感動させる。一人ひとりの歌声がハーモニーとなつて、相手の心に響いていく。こういう連帯感・友愛体験は、生徒たちの将来に、きつと、豊かな人のつながりやを築く、心の原風景になると思っています。

どこの学校でもある風景です。これらを通して、時には見直しも検討しながら、「勤労・自主・友愛」の精神を生徒たちとさらに求めていきたいと思えます。

第2回香美地区短詩型文学振興大会

(9月20日・市立中央公民館)

※ご紹介している受賞作品は市内の方の作品のみです。

【短歌の部】

◆香美地区文化協会会長賞（選者 楠瀬兵五郎氏）

特選

餌を欲る雛鳥にも似る孫二人わが掬ふプリンほの口開けて待つ 公文 正子

佳作

朝庭をとよもす蟬の合唱が独唱になりやがて静寂 山下 弓枝

◆香美地区文化協会会長賞（互選）

優秀

皺しわの腕を上げて大根の丸干しなりと笑ひて見せる 盛岡 雛子

【俳句の部】

◆香美地区文化協会会長賞（選者 前田欣一氏）

佳作

本殿の下がらんどろ蟬時雨 明石 菲生

帰省子に悠然として山河あり 黒岩千英子

蓮の実の飛んでメールに小さき嘘 橋本 昭和

◆香美地区文化協会会長賞（互選）

特選

夏萩や里を恋ひつゝ逝きし女ひと 前田美智子

優秀

新涼や老にも磨きかけにけり 間崎 和代

【川柳の部】

◆香美地区文化協会会長賞（互選）

特選

晩年を刻む時計がまた進む 榎谷 雅道

平成20年度第58回高知県芸術祭協賛行事

第3回香美市芸術祭

（短歌・俳句会 10月5日・市立中央公民館）

（写真審査会 10月8日・市立中央公民館）

【短歌会】（選者 楠瀬兵五郎氏）

特選

病み夫の愚痴をきき流す午後の庭おしろい花はくれなるの海 大岸由起子

手を引かれ夕べの道ゆく児の腰に蚊取線香吊られてゐたり 都築 初代

褒状

これよりのすさびとなるかうきうきと我も返せり絵文字を入れて 佐竹 玲子

夏風邪に四日やすみて立つ厨ガスの炎の青き冷たさ 長谷 千鶴

道の辺にはんなりと咲く合歓の花行き交ふ人の歩みがゆるむ 山下 弓枝

限りなく車は過ぎつバス停の姿愚直にわが長き影 鍵山 みつ

【俳句会】（選者 前田欣一氏）

特選

よその子が庭に来てゐる秋の蟬 橋本 昭和

父帰る日のクレーンが秋天に 安丸 楨子

褒状

まんまるの月の話が通る路地ひきがえる 大石 邦男

墓土管で向きを替えて鳴き 中澤としみ

ひまわりのみな沖を見る山の畑 馬場 英男

母の忌の風になじんで鶏頭花 前田美智子

【写真審査会】（審査員 高知新聞写真部長 土居賢一氏）

特選

少年たちの夏 武内 和子 落葉であそぼ！ 太田 和子

ファンタジー 吉田 浩子 西陽の街 榎谷 雅道

談笑 依光 淳子 午後のひととき 宮地 幸

さくらメール 山崎 静香

春寒 依光征二郎



【短歌】

楠瀬 兵五郎 選

生きていて良かりし程の才もなくなれぬ編物に今日も精出す 小川登代美

泣くやうに演歌がテレビより流る茶碗洗ひつつ口ずさむ夜 大石 緩子

若きらに交じりて踊るフラダンス敬老会を五箇所を廻る 門田 明子

うろの中ころころ丸きくつ墓の姿とこのい今濡れて這う 北村佐喜子

少々の歪みのあるは可しとせむ大根を播く畝立て終へぬ 公文 正子

打ち込みし鋏にカチンと石当り今朝一番の人生の齟齬 高橋 章

秋蒔きの野菜発芽をはじめしか静もる夜半の雨だれのおと 武内 弘子

中天に月あり峡のコンサート バイオリンの音虫の声々 竹村 咲子

窓よりの景色は山と空の青なよりの涼と甥は見上ぐる 古川 安子

姉は逝けり家路につけば唯ひとりぼんやり雲を眺めて帰る 有澤 春江

学業を支援半ばに子は去れり心の痛みわれに残して 明石 満子

近々と虹の根元は幅広く家並を包む七色透きて 高野 和一

独り居の庭の花々にとべる蝶我が友みたい去りもせず遊ぶ 鍵山 春子

絵手紙に慰められて生きて来ぬ私も描こうあの淋しい人に 門田 喜美

紅の菊をわが買い帰りゆくいつしか父の一年祭今日 小野寺朱実

故郷の語り部となり老いゆくか貧しきペンと貧しき文字に 森本 幸美

離れ住む子に伝へたき思ひありしたためをれば秋の夜更けぬ 山崎 貴子

田水引く流れに垂るる秋海棠アイスクリーム舐めて見ている 西尾 玉喜

カイドウの小さい花をいとおしむボケ咲きぞよと言いもならず 小原 子川

電話にて友の励ましを受けし夜夢に笑顔の人ら出で来る 谷内 務

飯足りて生くる幸せ忘れまい食糧難の迫り来るという 公文 千恵

身の危険顧みず蛇より子を守るつばめの母の心を思う
庭すみの紫式部彩つげり過ぎゆくときにこころはゆるる 吉本 悦子

雨待てど木の間は暗し暗きほど小雨と昔の人の言いしを 森 晶子

空き缶を荷台いっぱい運びいる猛暑の日々を集めし人か 山崎 緑

初めてのつくつくぼうし元氣よくはつきり啼きて涼しき気分 尾立 かよ

友の声うしろに聞きてペダル踏む話はずきぬその夜の電話 横田直加子

ふうらりと夜半の厨をめざす夫に阿囀ならざる吾の物言ひ 竹村 稔美

祭りの輪踊り狂ひし乙女ごころ短い余生を惜しむ思ひに 大岸由起子

良く動く先生達と婦人会煮る焼く切ると交流キャンブ 法光院俊子

久々に堰にあふれる水を見るこだます音は躬に打ちひびく 伊藤 清子

万緑に白きかたまりゆける群一羽の鷺がつかずはなれず 佐々木真里

仕事へと急ぐ道にて知り合ひし歩き参りの若者一人 古谷 由美

同級の友の訃報のつづきたり女二人に男ひとりも 高田 清子

蒸せる日の吾がもちの木につくつくの鳴けば遠くに鳴くもつくつく 小野川恵仁

南北に百メートルの葡萄園中腰になり収穫続く 都築 初代

子に分けむ胡瓜茄子あまた植殖し夫病みて居らねば唯に太りぬ 森本真理子

世の中のきびしさ長く詠みて知り今朝だしぬけにツクツクの声 小松もとみ

村里のあなたの高みの鐘楼の擁壁秋の夕日に照れり 坂上のぶ子

雨あがり四方の山々に霧立てり背に吹く風の快きかな 岡林 華伝

頂上の記念写真は全員がVサインせり甲斐駒ヶ岳 三宮のり子

独居とふ困ひの中に窓外の声はとどかず自由に生きむ 宮地 亀好

真清水にうまれし花なり秋深く紀伊じょうろうは天の雫か 山崎かつみ

藻草生ふる流れ緩らなせせらぎに犬を歩ませ散歩道ゆく 町 耿子

土偶ひとつ窓に置かれて空洞のアーモンドアイ我を見てゐる 山下 弓枝

半袖はゾンと鼻水急変も急転も馴らされて世に古ぶとも 佐竹 玲子

※俳句・短歌の応募は、企画課内広報委員会事務局まで。 楠瀬兵五郎